

**自然の力を活用する
省エネの新しいあり方。**

国は太陽光発電、蓄電池、HEMSなどといった新しい設備機器の普及を促進していますが、それを新しい産業として育成するため一定の条件を満たした設備を導入する場合には、補助金の交付を行うて助成しています。それが下記表・1です。

スマートハウスといいますが、多くの設備機器やコンピュータに囲まれた生活をイメージされる方もいらっしゃいますが、決してそのようなことはありません。むしろ省エネ性を高めるために日光や風などの自然エネルギーを最大限に取り入れるための工夫のある住宅が求められます。

例えば、夏の強い日差しをひき止めて涼しい風を呼び込んで熱気を外に逃がす。冬は暖かい日差しを窓から取り込んでその熱を上向きにため込んで夜に放出させるなど、設備機器に頼らない設計技法が必要となります。

省エネ住宅からゼロエネ・スマートハウスへ。

省エネについては、今まで断熱性能の向上が強調されてきたが、一定の断熱性能を満たした住宅が増えてくるにつれて第二のステップ、高効率の設備機器や発電・蓄電システムの導入も不可欠な要素となってきました。それは、国の目標が「ゼロ・エネルギー・ハウス」にあるからです。これは、躯体・開口部・給湯設備など、住宅設備の省エネ性の向上や再生可能エネルギーの活用を図ること、1次エネルギー消費量をおおむねゼロに抑えるという目標があるからです。オール電化住宅が基本になっている現代では、電力消費を抑えながらも快適性を確保できる住宅が求められるようになってまいりました。それを満たす住宅がスマートハウス

省エネ住宅からゼロエネ・スマートハウスへ。

省エネについては、今まで断熱性能の向上が強調されてきたが、一定の断熱性能を満たした住宅が増えてくるにつれて第二のステップ、高効率の設備機器や発電・蓄電システムの導入も不可欠な要素となってきました。それは、国の目標が「ゼロ・エネルギー・ハウス」にあるからです。これは、躯体・開口部・給湯設備など、住宅設備の省エネ性の向上や再生可能エネルギーの活用を図ること、1次エネルギー消費量をおおむねゼロに抑えるという目標があるからです。オール電化住宅が基本になっている現代では、電力消費を抑えながらも快適性を確保できる住宅が求められるようになってまいりました。それを満たす住宅がスマートハウス

使えるスマートハウス助成措置。

使えるスマートハウス助成措置。

省エネからゼロ・エネ住宅へ、スマートハウス助成措置が使えます。省エネ性の高い住宅に太陽光発電・蓄電・エネルギー管理を組み込んだ家！



補助対象機器	住宅用太陽光発電導入支援補助金	定置用リチウムイオン蓄電池導入促進対策事業補助金	HEMS導入促進事業補助金
補助対象機器の主な条件	1) 太陽電池の公称最大出力またはパワーコンディショナーの定格出力のいずれか小さい方の値が10kW未満で、システムの補助対象経費が55万円(税別)以下 2) 太陽電池モジュール変換効率一定の数値を上回る事。一定の品質・性能が確保され、設置後のサポートなどがメーカーなどによって確保されていること、という2つの条件を満たし、J-PECにより登録されていること	1) SHが指定する蓄電システム 2) 補助対象基準に準拠している事が第三者である指定認証機関の認証や審査に基づきSHにより認められているもの	SHが定める対象基準を満たしていることがあらかじめSHにより認められ、補助対象として指定されたHEMS機器であること
補助金額	公称最大出力1kW当たり3万円5000円※1kW当たりの補助対象(税別)3.5万円を超えて47.5万円以下。ただし公称最大出力が10kW以上の場合には10kW以上の割合に9.99kWとして計算	蓄電システム機器費の3分の1(上限100万円)	定額10万円 ※1) 定額を上回る領収書の金額に対しては、その領収金額の1000円単位以下を切り捨てた金額を補助 ※2) 2013年4月を境に市場実勢価格を踏まえ、原則、補助金額(定額)の引き下げを行う
補助事業者	太陽光発電普及拡大センター(J-PEC)	環境共創イニシアティブ(SH)	環境共創イニシアティブ(SH)
募集期間	2012年4月19日~13年3月29日	2012年3月30日~14年1月31日	2012年3月30日~14年1月31日

赤ペンポ

山椒が終わり、ようやくメイシソノが咲き始めています。この頃は20度が越える日々が続いたり、急に寒くなったたり、落ち着かない気温状態が続いていますが、季節は春を飛び越して夏に向かいます。そうなのも、中国からの大気汚染もようやく落ち着いてきたように、猛威をふるった杉花粉と共に消えていく染が取まれば、鹿児島は直ぐにでも夏の到来です。

▼HEMSとかスマートハウスとか様々な新語が飛び交っていますが、日本の住宅は、いままで以上にさしかかっています。いすれにしても最も重要なものは、どんな設備の導入よりも住宅の性能です。住宅性能さき間違ひ無ければ、設備は後で取り付けられます。設備優先で住宅を建ててしまうと、ほとんどの設備は10年程度で耐用年数を迎えます。

▼住宅性能を2020年基準の「ゼロ・エネルギー・ハウス」仕様で建てておけば、憂いはなくなり、太陽光発電やHEMSの設備機器についても助成措置が有りますが、早い者勝ちの制度です。早めにお早め。

自立循環型「松下孝建設・高性能住宅」川内展示場公開中!



松下孝建設の川内展示場が完成しました。前回の展示場は平屋でしたが、今回の展示場は2階建ての高性能住宅展示場です。夏も冬もエアコン1台で快適に生活していただくことが出来ます。松下孝建設の住宅は、省エネルギーの高性能住宅として定評がありますが、本展示場はデザイン的にも様々な見所があります。これからは現場でも電力事情からも、今までのような大量のエネルギーを使用することは許されなくなっています。本物の高性能住宅とは、どんな住宅性能なのか、是非、川内展示場で体感して下さいませうご案内申し上げます。

自立循環型「プラス・エネルギー・ハウス」展示場建設現場公開中!



2020年「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス」の先を見据えて

「認定低炭素住宅」制度は、2020年基準を見越した高性能住宅誘導措置です。1次エネルギーの消費量を基準住宅性能よりも10%以上軽減する必要があります。省エネの義務化では、この「認定低炭素住宅」が義務化の基準になります。松下孝建設の星ヶ峯展示場は、同じく2020年から開始される「ゼロ・エネルギー・ハウス」や「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス」の性能基準となるスペックで建てられています。現在、構造が見学できる状態になっていますから、興味のある方は是非ご覧下さい。

■住宅は見た目も大切ですが見えない部分が将来的に重要な部分です。「プラス・エネルギー・ハウス」は「ゼロ・エネルギー・ハウス」の先を見越した、未来型の住宅です。時代にあった創エネ設備を建て主様がプラスしていくことで住宅がエネルギーを生み出します。是非、松下孝建設の施工現場で「プラス・エネルギー・ハウス」も実現可能な未来型住宅施工現場をご案内下さい。事前にご連絡いただければ、ご案内致し詳しくご説明申し上げます。



□住宅に関する資料等もフリーダイヤルにてご請求下さい。資料等をお送り致します。